

ジブン・アップデートVol. 1

田中 :

どうもこんにちは田中です。

それでは新シリーズとして、Mr.G とお届けする『ジブンアップデート』の対談の一発目を撮らせて頂きたいと思います。よろしくお願いします。

Mr.G :

よろしくお願いします。

田中 :

ずいぶん久しぶりで、これ何年ぶりですか、何年までは行ってないですかね？

M.G :

対談みたいなものは、もう何年じゃないですか。

田中 :

そうですね。だから最近僕のメルマガを読んでくれるようになった人というのは、Mr.G って知らない人が多いんですよね。

セミナーの懇親会とか、イベントの時にちょいちょい来てもらうじゃないですか。

そしたら「なんか凄い色々なこと知ってるし、アドバイスくれるけど、あの人誰なんですか」みたいな感じで、お前、Gを知らずに話聞いてもらってたのか、みたいなことがよくあるんですよ。

3年以上、僕のメルマガを読んでくれている人は、前にちよくちよく一緒に企画をやったりとか、一緒にコンテンツを作ったりというのをやっていたんですけど、

まあ初めてという人もいらっしゃると思うので、簡単にMr.Gを紹介をしたいと思うんですけど、Mr.Gの職業って、肩書きって、なかなか難しくて、まあコンサルタントじゃないですか。

コンサルタントとして、法人であったり、個人は少ないかもしれないけど、色々な人にアドバイスをするっていうことをやってらっしゃるんですけど、どういう風に自分を表現するのがしっくりきますか？

Mr.G :

まあコンサルタントっていうのが一番近いんですけど、コンサルタントというのも種類があると思っていて、

自分の知ってることを教えて、「このやり方をやったらあんたもうまくいくよ」っていうものを教える先生業と、

相手と二人三脚のようになって、相手に必要なことを教えるパートナーコンサルタントの2種類があると思ってるんですよ。

私はそのパートナー型コンサルタントで、世間一般でこれが正しいよって話じゃなくて、そのクライアントの人が必要なこと、世間一般とは違うかもしれないけれど、その人に適切なアドバイスをする仕事みたいな感じで考えています。

田中 :

なるほどね。そういう感じのスタンスでやってらっしゃるじゃないですか。

でも種類が多岐にわたるといえるか、ガッキーは、まあガッキーって呼んでるんですけど、業種様々、人様々、やることアドバイス様々みたいなものじゃないですか。作っていくのも様々みたいな。

なんでそんなことができるのかっていうのが、一つポイントになるというか、今回『ジブンアップデート』ということで、アップデートしていかなくちゃいけない今の時代において、

その問題意識がある人、あるいは作っていききたい現実と今の時代というのが、ちょっと不安みたいな人が、勉強しようと思って登録してくれてると思うんですけど、なんでそういうことができるのかっていうのがすごく不思議な人多いと思うんです。

だって、自分がずっとその業界でビジネスをやってたとかではないじゃないですか。それは何でなんですか？

今回のアップデートの中で色々お話を聞かせてもらおうとは思ってますけど。

Mr.G :

一番の本質っていう所があるんですよ。

業種は違っても、やっていることはビジネスと考えれば、人間対人間が、問題解決を提供するのがビジネスの一番の本質なんですね。

これは飲食業であれ、輸送業であれ、ITであれ、みんなそうなんですよ。相手の抱えている問題を解決してあげるっていう、それだけなんですね。

そこの本質の部分さえ外さなければ、業界をまたいでも問題がないというか、同じなんですよ。

田中：

さらに言えば、今回のテーマの一つであるアップデートというのも、ガッキー自身がずっとされているわけですね。

これメルマガであまり言わないので、知らない人がほとんどなんですけど、僕の近いメンバーは結構知っているんだけど、定期的にガッキーにアップデートをかけてもらっているというか、

自分が今やっていること、やろうとしていること、そして今の自分の状況というのを都度確認というか、見てもらいながら、自分がアップデートしなきゃいけないところを明確化してアップデートしていく、

ということをここ何年だろう、まあ親しくなって11年、11年ですよ！そりゃ歳食うはって話ですけど、だってまだ27だったからね。やばいね。

でもそれやっていきながら、都度僕もアップデートしてきたから、今こうやってビジネスもできているし、ある種QOLの高い生活というのをできていると思うんですけど、

この間、ここを話していて、僕の面談というか、見てもらいながら、これって僕のメルマガ読者さんに絶対必要だよなって思ったんですよ。

自分をアップデートさせる技術。アップデートさせていかないといけないわけじゃないですか。

これ別に僕のメルマガを見てくれている人だけじゃなくて、おそらく今の時代っていうのは、このアップデートを最適にできる技術というのが、あるのと無いのじゃ、たぶん作られる現実が大きく変わるような時代ですね。

Mr.G :

そうですね。

田中 :

だから今回時間を取って、Mr.Gの時間をロックして、だって実は撮っているの台風明けなんですよね。兵庫県に住んでいらっしゃる方なので、たぶん来れないって感じだったんですよね。

始発で移動してきて頂いて、明日は明日で関西に飛んでコンサルがあるみたいなきななんですけど、折角こうやって時間を取ってもらって、今から対談を撮るので、

これ別に無料で配られる動画だからという認識じゃなくて、しっかりメモを取って、自分に何を取り入れられるのか、自分には何が当てはまるのかというのをしっかり意識しながら聞いてください。

じゃあまず今回のメインテーマになる「アップデート」というもの、ガッキーが提唱されているアップデートというのは、どういうものなのかを教えてくださいもいいですか。

Mr.G :

私の思うジブンアップデートというのは、「変化」なんですね。

多くの人は学んだり経験を積んだりしているんですけど、それによって起きるのは「成長」なんですね。

もちろん成長も必要なんです。ところが成長というのは、一つのレールを右肩上がりに上がっていく行為なんですね。

今というのは、時代背景とか色々な問題で、今の延長線上に未来は無いとか、今の延長線上では間に合わない、ついていけないという時代になっているわけです。

田中：

分からないからね。どんどんね。

Mr.G：

そうなんです。だからそうなったときに必要なのは、今の成長ではなくて、このレールそのものを乗り換えてしまうような変化が必要なんですよね。

この変化をもたらすのがアップデートなんです。

田中：

なるほど。多くの場合は右肩上がりにレールが進んで、それを乗り続けられればいいっていう昔のコンセンサスというか、正解みたいなものがあつたけど、まず時代がそれと違うと。

であれば色々なレールがあつて、いま必要なレールに乗り換える、自分を見極めて乗り換えなきゃいけないって思うなら、その乗り換える力のことをアップデート？

Mr.G：

そうです。

田中：

わかりました。そのアップデートする力というのが、ピンときてない人もいると思うんだよね。

だから前時代的というか、昔言われたように頑張って、例えば技術をつけて年数を重ねれば、会社組織にいたら給料が上がってみたいな、まあそれは流石に不透明になってきていることくらいは何となく分かっていると思うんですけど、

昔のルール、昔の進み方、ガッキーの言葉を借りるのであれば、線上。今のその線上にハッピーがあったらいいんだけど、無いことの方が、あるって思わない方が、確率が高いじゃないですか。

そういう人が、じゃあアップデートという概念、アップデートというものを無視して生きてらどうなると思われませんか？

Mr.G :

そうですね、例えばなんですけど、仕事というのが技術の変化とか進化によって、なくなってしまった仕事というのが結構ありますよね。

田中 :

あるね。もう既に結構あるね。

Mr.G :

ありますよね。商品そのものもそうですよね。

今ちょっと復活しているとはいえ、カメラのフィルムって、あれがあって当たり前で、それを現像してくれる街の写真屋さんがあったと。

それはカメラとか写真というのがある以上は、絶対に未来永劫あるとみんな思っていたわけですよ。

ところが、デジタルカメラというのになって、スマートフォンの画質が上がったら、今わざわざフィルムを買って、それで写真を撮って現像に出す人って、もう数百分の一、数千分の一に下がってしまったわけですよ。

田中：

それは、そういう人ってもうマニアというか、趣味の領域だけということ？

Mr.G：

そうです。

田中：

だよ。見ないもん、そういえば。

Mr.G：

昔は、まだフィルムの方が綺麗とか、画素数の問題とかで使っている人もいたんですけど、今はもうデジカメが進化しているから、フィルムよりデジカメの方がいいやっとなっているわけですよ。

そうになると、そのフィルムに依存しているビジネスをやっていた街の写真屋さんとかが潰れちゃったわけです。それをプリントする印画紙とかを作っていた会社も潰れちゃったわけですよ。

という風に、今やっているビジネスが永久に続く保証なんて何もないわけですよ。

一つの技術の進化とか、よく言われるAIとか、一つのテクノロジーがポンと入ってくるだけで、もうそこに必要な人間は十分の一とかに平気な時代にいるのに、

今の仕事をひたすら学び続けて経験を貯め続けて、成長し続けたときに、その未来において、その仕事が残っていればいいですけど、ガクッと必要性が下がったときに、

もう何の取り返しもつかない古い技術者が一人できあがってしまったら、意味がないわけですよ。

田中 :

超そうですよね。頑張っていたのにね。

Mr.G :

でも多くのビジネスは、全てシステムとかAIとかで、効率化しようと今していますよね。

田中 :

そうですね、正にですね。

Mr.G :

そうになったら、特に技術者から削られていくんですよ。

田中 :

だってできるもんね。AIが得意な領域というか、人によってムラがあるようなものから、だもんね。まずね、シンプルに。

Mr.G :

機械が全自動でやってくれるようにどんどんなっているわけで、いま技師とか言われるものも、どんどん必要なくなるわけですよ。

例えば今、歯科技工士とか歯の詰め物を作ってくれる人も、3Dプリンターが全部やるようになったら、いらなくなっちゃうわけですよ。

田中：

なるでしょ。明らかに。

Mr.G：

なると思います。そういう風な形で、今ある技術というのは、全て今の皆さんの仕事というか、一般の人達の仕事にフィードバックされてくるので、そうなったときに、明らかな変化が絶対に起きるんですよ。

田中：

起きるよねって言っても、もしかしたら日本人の国民性かもしれないけど、「いやいや、テレビの向こうの世界だ」って思う人があまりに多いんですよ。

もうAIだとか、時代が変わるとか、言われているけど、自分には本当に関係がないと思っている人は絶対いると思ってて、こうやって話をしても、

ビジネスをやっている人にとっては、もしかしたら死活問題になるかもしれないけど、僕は会社に守られているからとか、公務員だったら国に守られているからとか、思っている人いると思うんだよね。

いや、関係ないからね。

だって本当に関係ないんですよ。ビジネスをやっているから、やってないからだけの問題じゃ全然ないって話なんですよ。

Mr.G：

私は大きい企業から相談される話だと、ヘルプセンターとかコールセンター、食品関係だとお問い合わせを受けるお客様センターってのがあるんですね。そこにAIを使うことで、社員を激減させようという風な話をずっとしているんですよ。

そういうコールセンター業務的な対人的なものですらも、企業は減らす方向で動いているんですよ。だから企業が守ってくれるというのは、完璧に幻想なんですよ。

あのPepper（ペッパー）君ってロボットいたじゃないですか。

あれ本体は結構安いんですよ。100万するかしないかで、だけど月々の利用料が結構高いんですよ。

メンテやら何やらで20万円くらいして、買うのは安くせに、月々のメンテ費がそんなかかるなら、こんなロボット誰が買うんだよって昔は思っていたんですよ。

ところが、ソフトバンクとか店頭にありますよね。

あれっていうのが、先を見越していて、あいつを1台入れて、人間のバイト一人の代わりをさせられたら、一人分のバイトとか社員のお給料を減らせると。

で、バイトとか社員はいつ辞めるか分からないし、スキルにもムラがあるけど、そこで蓄積されたデータは全店舗で使えるわけで、言ってみれば「文句も言わず24時間働く店頭窓口業務ができる存在」ができあがるわけですよ。

そう考えたら、月々20万円でも安いというのが、企業の判断なんですよ。だからペッパー君はどんどん広がっているんですよ。

田中：

なるほど。最近、iPhoneを2ヶ月連続失くすというあまりに情けない感じが続いているんですけど、だからペッパーと毎月会ってますよ。田町店で。

Mr.G :

だから皆が、それはまだ未来の技術でしょ、自分の身の回りにはないんでしょって思うかもしれないけど、

最近のiPhoneとかの顔認証もAIがやっているわけですし、街に出れば、ペッパー君が、AIとかデータベースを基に接客をしてくれていて、そういう風なものは日常に入り込みまくっていますよね。

田中 :

だからアップデートって自分と関係ないことじゃないんだ。

Mr.G :

関係なくないですね。

田中 :

ビジネスをやっているようがやっけていまいが、全然関係ないと。今ちゃんとアップデートをしていくっていう所に敏感になっていないと、というよりこれですら遅いですよね。

だって言われなくても時代性を肌で感じて、何となくアップデートというものをやって、波乗りの様に変わっている人っているじゃないですか。

ガッキーとかも本当にそうだと思うんですよ。昔、20年前に学校で言われていた様な職業じゃないじゃん。まあ俺もそうなんだけど。

こんな職業があるって聞いてなかったの先生に。20年前って18、うわ20年前が18だって。ジジイじゃん。別にいいんだけど。なかったわけじゃないですか。

でもその都度、次の時代っていうか、今ってこういうものがある、こういうツールがある、こういう技術がある、こういうことをやったら、こういうことができるっていう風に移り換えてる方が、やっぱりその時代で、QOL高く生きてるんですよね。

僕の周りを見渡しても、同年代の友達を見ていると、別に良い悪いはその人が決めることなんでしょうけど、

昔ながらの正解というのを本当に愚直に真面目にずっと追い求めてきた人が、じゃあ生活がどうなっているかといったら、そんだけ頑張ったのに、しかも石の上にも三年じゃないけど、しがみついていたのに関わらず、報われてない人が多すぎるんですよ。

でももうリカバリーをしようとしないう、「ここまでやってきたんだから」っていうのが、多分あるんじゃないかな。 sunk cost というか、新しくいかないっていう。でもそれ危険じゃないかな。

もう遅いと思ったとしても、今変わっていかないと、どんどんその差っていうのは開いていくから。だからこそ個人のレベルでアップデートさせていく。

Mr.G :

そうですね。

田中 :

じゃあそのアップデートってさ、これから先いろいろ話を聞いていくと思うんですけど、アップデートをさせていくっていうことは、

ビジネスをやっている人もいれば、ビジネスをやっていない人、受験生の人もいれば、資格試験を目指している人もいれば、社内の中で結果を出したいっていう人もいますよ。

あるいは、自分のQOLを上げる為の人間関係を作っていきたいとか、色々な人が僕のメルマガを読んでくれているので、そういう人達にとって、アップデートするっていうことは、どういうことなのか。

詳しくは次の動画で聞きたいんですけど、どういった必要性というか、アップデートというものに関して、時代に合わせていくということに関して、もっとちゃんと重要性というのを欲しいんですよ。

僕はそれが凄く感じるから、ガッキーに定期的に会ってアップデートをかけていくのをやっているんですけど、どういう風に言ったら伝わるんですかね？

Mr.G :

まず重要性が伝わらない人というのは、自分ごとになっていないからだと思うんですよ。自分にはまだ必要ないって思っているから、重要じゃないと思ってしまっていると思うんですよ。

ところが、必要か必要じゃないかというのは、その人が必要な世界に生きているか生きていないかっていうことですね。

結局、時代が変わっているんですよ。

昔の寿命は、よく生きて80歳だったから、人生というのは大きく3つのステージで分かっていたんですね。

- ・ 20歳までの「学びのステージ」
- ・ 20歳から40年間の「働きのステージ」
- ・ 60歳から80歳までの「余生のステージ」

これでまとまっていたんですね。

この人生の寿命というのがありきだったから、この辺までは働けるでしょってということで、60歳で定年退職しなさいってものを国が決めてたわけですよ。

ところが今は、そもそも寿命がどんどん伸びてて、今の30代40代の人ってというのは、平均で100歳まで生きるわけですよ。2007年以降に生まれた人は、過半数が107歳以上生きるって数字が出てるんですよ。

つまりもう人生100歳まで生きるのが普通なんですよ。

そうすると、さっきのやつより20年増えちゃったんです。何が増えたかというと、働く時間だけが増えたんですよ。

だから余生が来るのは80からで、80歳までは働かないといけないんですよ。

これはもう変な話じゃなくて、結局死ぬのが80だから、退職するのが60だよって国が決めていたけど、今死ぬのが100くらいになっちゃったから、今どんどん定年退職を後ろに遅らせてるじゃないですか。年金の受給とかも遅らせてるじゃないですか。

あれは、知識の無い人は、お金が無いからどんどん後ろにずらして、逃げようとしてるんだらうって思うかもしれないけど、

そうじゃなくて、人生の全体的な割合から言うと、ここまでは働けよってというのがもうあるわけなんですよ。

そういう意味で言うと、もう今の人達は80まで働き続けるということが、もう決まっているんですよ。

田中：

なるほど。

Mr.G：

そうなったときに、これまで学生だった20歳、そしてそこから今までに10年、20年働いてきたわけじゃないですか。ここでもう自分の知識とか、経験とか、偏見とか、そういうのが固まっているんですね。

ところが、働いている年数で言うと、まだこの後に50年とか60年平気であるわけですよ。これまで働いた年数の2倍くらい残っているんですよ。この2倍くらいの間に、技術はもっと加速度的に進化するわけですよ。

そしたら、丁度20年前くらいって、『Windows Me』とかが増えて、パソコンが入ったわけですけど、当時って、パソコンって職場に一台くらいしかなくて、パソコンできる人は一人くらいいて、あとは「俺パソコンなんかできない」って言えたんですよ。

ところが、今はもう全員一人一台パソコンがあって、「俺パソコンできません」みたいな人は雇われないじゃないですか。

田中：

確かに。

Mr.G :

それくらい20年で変わったわけですよ。

ならこの後20年変わったときに、今これを聞いている方が、俺は最低限パソコンできる、スマホもできるから大丈夫だよって言ったときに、

今新しく出ている技術とか、凄いことを「それは未来の技術でしょ、AIなんか知らないよ」って言ってたら、多分20年後には居場所がないんですよ。

田中 :

そうだよ。確かに。なるほど。

Mr.G :

だから今からアップデートというのをやっておかないといけないですよ。

田中 :

なるほど、超分かりやすい。だってどんどん明らかに新しいテクノロジーとか色々なものが来るもんね。

今PCできていようが、ちょっと何か分かっているようが、それ昔の人で「いや俺車運転できるし」って言っているようなもんだよね。それは絶対にいるね。

なるほど、分かりました。じゃあ人生が100年、それ以上になると、そういう時代になる上で、これは最低限必要な素養として、アップデートしていくというのが重要だと。

別に仕事する為に、ビジネスやる為に、お金稼ぐ為に、もちろんそれは必要なんだけど、生きていく上でも、かなり生活様式というか、人生の質そのものが変わってくる概念ですよ。アップデートするという概念があるかないかというのは。

なるほど。じゃあ次の動画で、具体的にアップデートさせていくってということがどういうことなのか、何をどういう風にしていくのかっていう、具体的な話を聞いていきたいと思います。

じゃあ第一本目は終わります。ありがとうございました。

Mr.G :

ありがとうございました。